

## インフルエンザ桿菌肺炎（疑い）に対して治療を受けられた患者さんの

### 検体・情報を研究に利用することについてのお知らせ

小倉医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。本研究に関するご質問等がありましたら下記の[当院の問い合わせ窓口]までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、当該研究に検体・カルテ情報が用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の[当院の問い合わせ窓口]までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

#### [研究課題名]

$\beta$  ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性インフルエンザ桿菌(BLNAR)による市中肺炎が疑われる小児における抗菌薬の投与量と投与期間の検討

[当院の研究責任者] 薬剤部 西尾 公志

#### [研究の背景]

小児の市中肺炎の原因微生物のうち抗生物質で治療されるものは、主にインフルエンザ桿菌、肺炎球菌、肺炎マイコプラズマです。この中でインフルエンザ桿菌や肺炎球菌が疑われる場合は一般的にアンピシリンという抗生物質で治療されます。しかし、インフルエンザ桿菌にはアンピシリンに耐性を持っている $\beta$  ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性菌(BLNAR)という種類の菌がいます。この耐性菌に対してはセフォタキシムやセフトリアキソン等の違う薬で治療される場合がありますが、BLNAR による肺炎に対してでも、アンピシリンが有効とされる報告もみられます。

BLNAR による小児の市中肺炎に対する抗生物質の投与量や投与期間の報告は少ないため、抗菌薬の投与量、投与期間とその治療効果を調査することは、本邦の小児における BLNAR 肺炎の抗菌薬の適正使用につながり得ると考えています。

#### [研究の目的]

$\beta$ -ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性インフルエンザ桿菌(BLNAR)による市中肺炎が疑われる小児に対する抗菌薬治療の投与量、投与期間と治療効果の関係を調査します。

#### [研究の方法]

- 対象となる患者さん

(臨床研究に関する公開情報/単施設実施用)

2017年4月から2021年9月の間にインフルエンザ桿菌肺炎(疑い)の治療(検査)を受けた小児の方

●研究期間：本研究実施許可日～西暦2023年3月31日

●利用する検体、カルテ情報

年齢、性別、身長、体重、診断名、基礎疾患、既往歴、併用薬、使用抗菌薬の種類および投与量と投与期間、検出菌および検出した菌の薬剤感受性結果、感染巣、臨床検査値(血清クレアチニン、血中尿素窒素、アスパラギン酸トランスアミナーゼ、アラニンアミノトランスフェラーゼ、 $\gamma$ -グルタミントランスペプチターゼ、総ビリルビン、アルカリフォスファターゼ、白血球数、C反応性蛋白)、体温、血圧、心拍数、呼吸回数、転機、集団保育の有無などについて調査します。

●検体や情報の管理

検体や情報は当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[当院の問い合わせ窓口]

国立病院機構小倉医療センター

薬剤部 西尾 公志

〒802-8533 北九州市小倉南区春ヶ丘10番1号

電話 093-921-8881